令和3年度

京都STEAM女子応援セミナー

イベントレポート
Event Report

主催：京都府

共催：京都市　協賛：公益財団法人 日新電機グループ社会貢献基金

協力：株式会社片岡製作所／日新電機株式会社／株式会社堀場製作所／株式会社ワコール／国際ゾンタ 京都Ⅰクラブ／国際ゾンタ 京都Ⅱクラブ

後援：京都工芸繊維大学／京都府立大学／京都府教育委員会／京都市教育委員会／京都府私立中学高等学校連合会

運営：株式会社成基総研

科学技術・学術は、社会の持続可能な発展のための基盤であり、IoT・ビッグデータ・AI 等の最先端の技術開発や、その技術を活用した製品・サービス提供等においても、男女が共に参画し、その恩恵を享受できることが重要です。

しかし、日本においては、大学・大学院でSTEAM(理工系)分野を専攻する女子学生の割合が諸外国と比較して低く、また、STEAM分野の研究者・技術者における女性割合も少ないのが現状です。

女性がSTEAM分野に進まない理由には環境の影響が指摘されており、具体的には、友人や同級生など周囲の女性の進学動向、保護者の意向、STEAM分野に進んでいる先輩が身近におらず将来のイメージを持てない、といったことが挙げられます。

こうした現状を踏まえ、今回のセミナーは、STEAM分野で先進的に活躍している方や、STEAM分野を専攻している女子学生、企業の技術職や研究職として働く女性社会人の話を聞くことで、STEAM分野の学部や仕事に対する理解を深め、今後の進路選択の参考にしてもらうため、開催しました。

※STEAM(スティーム)＝Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の総称。

開催概要

京都STAEM女子応援セミナー

日　　時	令和3年11月21日(日)13:00～16:00
会　　場	ワコールスタディホール京都 及び Zoomによるオンライン開催
参加者数	51名

プログラム

1 基調講演

テーマ　創造性の時代　STEAMがひらくワクワクドキドキの未来×女性

講演者　中島さち子さん　株式会社steAm 代表取締役 CEO

2 グループワーク(ワールドカフェ)

登壇者(順不同)

岸上 千華さん	**株式会社片岡製作所** 技術本部 第一技術部 電池課
髙野 瑠衣さん	**日新電機株式会社** 電力・環境システム事業本部 ソリューションシステム事業部 画像応用装置部
大橋 彰華さん	**株式会社堀場製作所** 医用事業本部 開発・設計部 Design Engineeringチーム
冬木 愛子さん	**株式会社ワコール** 人間科学研究所 企画課
村田 ゆとりさん	**京都工芸繊維大学** 工芸科学部 応用生物学課程 3回生
吉成 愛美理さん	**京都工芸繊維大学** 工芸科学部 デザイン・建築学課程 3回生
操谷 佳奈さん	**京都府立大学 大学院** 生命環境科学研究科 環境科学専攻 修士 2回生
清水 歩美さん	**京都府立大学** 生命環境学部 農学生命科学科 1回生

Program 1

基調講演

Keynote Speech

STEAMとは、科学者や数学者のように考え、エンジニアやアーティストや発明家のように創り出すための
学び方・生き方を象徴する概念。多彩で異なる視点・感性を活かして未来を創るのは、あなたであり私たち。
ぜひ、1秒先の未来へ大きな希望の花を咲かせていきましょう。

登壇者

中島さち子さん

株式会社steAm 代表取締役 CEO

株式会社steAm 代表取締役 CEO
大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー
内閣府STEM Girls Ambassador
音楽・数学・STEAM教育・メディアアートなど多領域で活躍
国際数学オリンピック金メダリスト
NY大学芸術学部ITP修士

公式ホームページ
https://steam21.com/

Theme

創造性の時代 STEAMがひらく ワクワクドキドキの未来×女性

数学×ジャズ×教育

私がみなさんの年ごろには、数学に夢中でした。その少し前までは音楽にハマっていたのですが、中学生の時に、数学の面白さにのめり込んだのです。その後、大学でジャズ研究会に入ると、ジャズの世界があまりにも面白く、しばらく没頭していました。それからだんだん、「音楽も数学も実は似ている」ということに気付き始めました。

また、国際数学オリンピックなどの面白い学びの場やコミュニティに出会えたということが当たり前ではないということに気づき、高校3年生の頃から、みんなに「数学の学問としての（創造的な）面白さ」を伝える場を作るようになりました。教材を作ることもしていました。そこからだんだん「教育って面白いな」と思い、今も教育に力を入れています。

自分と向き合う「やりたいことは？」

「STEMの分野に女性が少ない」というのは、世界的に言われていることですが、日本は特に少ないです。私の大好きな数学、ものづくり、エンジニアリングの分野はとても面白い世界なのですが、その魅力が女性たちに十分に伝わっていない。

海外で、STEM分野の女性がよく講演会などで話しているのは、「私は本当は何がやりたいんだろう？」という問いを繰り返し自分に投げ掛けた、ということ。その問いを重ねていくと、文系・理系だったり、特定の専攻や職業だけでは定義し切れない自分自身が見えてくると思うので、今日を1つのきっかけに、更に自分自身に向き合っていただければと思います。

グローバル社会における、グローバル言語

英語はできるとやはり良いと思います。英語に限らず、中国語やスペイン語でもいいのですが、日本語で会話できる方はやはり世界では少ないので。英語が話せると世界が広がって、多様な人たちと多様なことを話すことができます。日本の文化を知ってもらうこともできるし、逆に自分自身が日本の良さに気がつくことも多いと思います。

国際数学オリンピックでは、私はインド大会とアルゼンチン大会に出場しました。世界の多様性があまりにも面白くて、高校卒業後はコーディネートする側で、ルーマニア大会やスコットランド大会に行かせていただきました。音楽の方でもロシアやヨーロッパの方にたくさん行きましたが、物凄く楽しかったです。音楽や数学もグローバル言語。でも、やはり英語は大事です。

自分には創造性があるという人はいますか？
何かを創るのが楽しいとか、何かに気づいて心が躍ることがあれば、
それは創造性があるということです。　（中島さち子さん）

コンセプトと技術の両方が必要

私は最近まで、ニューヨーク大学の大学院で、アートとテクノロジーを掛け合わせる研究をしていました。そこのテクノロジー部門には、エンジニアやプログラマーの凄い人も当然いましたし、一方で、全くプログラミングなどやったことがないアーティストや音楽家、建築家、経営者、小説家など、様々な人がいました。ニューヨークには世界中から色々な人が集まっていて、本当に多様性のるつぼだなと感じました。そういう多様な人たちだからこそ、例えばAI（人工知能）、AR（拡張現実）、VR（人工現実感）を題材にする時に、「これらを使って何をしよう」とコンセプトを作ることと、「それを、誰がどういう技術でどう形にしよう」と具体化すること、両方の議論がなされます。コンセプトを描けないと作るだけの人になってしまいますし、知識・技術がないと、具体化の部分を人に任せるにしても指示を出すことができない。だから、両方が大事なんです。

自分自身の価値を肩書に頼らない

これから先の未来はおそらく、20世紀と違って、「この大学に入って良かった」「この企業に入って良かった」で終わりにはならなさそうです。時代も、会社も、会社の中の仕事も、揺らいでいます。先輩や上司の言うこと、あるいは父母の言うことが正しいとも限りません。今、あらゆるものがどんどん変わっていっているので、「今の状況はこうだから、これからこういうことが重要になってくると思う」という自分なりの考えを持つことが大切です。

今までは会社のマーケティング部門や企画部門の人が考えていましたが、もうそういう時代ではなくて、営業の人もエンジニアの人も、どんな人でも考えなくてはいけないと思います。今までは、どこの企業に勤めているとか、どこの組織に属しているというような肩書が価値でしたが、これからは一人ひとりの価値が重要になります。逆に言うと、自分自身の価値を明確に持てるようになれば自分に自信が持てますし、たとえどのような状況になっても生きていくことができます。「自分は本当は何がしたいのか？」を問い続けていれば、他の人に何を言われたとしても、最終的に自分の人生を決められるのは自分だけですし、何か見えてくるのではないかと思います。

創造性の民主化時代に大切な能力

20世紀では、人間の能力は、テストの点数や偏差値、IQなど一次元的な軸によって測られることが多くありました。また、公式などの背景の発見の喜びなど以上に、できあがった公式や定理が十分に使えるか、マニュアル通りにできるかなど、決まったことをしっかり手順通りに行う力が重要視されました。でも今は、そもそも時代変化の速度が速く、未来予測が全くできない時代になってきた。一方、機械が優秀になり、人間以上に指示通りに動いてくれます。

しかし、機械は融通が利かないところがあるので、ちょっとイレギュラーが発生したりすると対応できずに止まってしまったりします。だから、人間に与えられたアルゴリズム通りに動くAIを過信してはいけない。最近のAIは人間の指示なく、自分で学習できるようにもなってきましたが、育て方次第では変なAIになってしまうことも往々にあります。「AIは人間を超えた」なんていうこともよく聞くようになりましたが、AIだからって完璧なわけではないんです。

そのような背景から、今後人間により求められるようになるのは、俯瞰的に物事を考える力や、新しい価値を見出すような創造力です。「自分には創造性がないのではないか」と思ってなかなか動けない人も多いと思いますが、一人ひとりが自由に個性を発信できるようになりましたし、それぞれの多様な価値観や考え方に価値がある時代です。また、一人でなくても、共創することで、色々なものの掛け算によって生み出すこともしやすくなりました。21世紀は、「創造性の民主化時代」と言えます。

あらゆる境界線が消えていく

最近、何がトレンドとしてあるかと言うと、業界の境界線がなくなってきたということ。アカデミックの領域も同じで、かつては周りの研究室が言ってることは全然わからない、という状況でしたが、最近では全然異なる分野のアイディアで問題が解かれてしまう、ということが頻繁に起こるようになってきています。

国際数学オリンピックで金メダルをもらったペレルマンという方がいるのですが、彼は「ポアンカレ予想」という位相幾何学の難問を解きました。専門家たちが長い間取り組んできてずっと解けなかった難問を、彼は「物理」のアイディアで解いたのです。視点を変えた瞬間に大きなブレイクスルーが起きたのですね。

数学の分野でも必ず専門外の人に聞くようにしています。数学と生物とか、数学と美術、アーティストも数学的なものを使って作品を作っています。数学者たちもそれをより理解するためにアート作品を作ることもあります。化学の世界とか生物の世界も数学と繋がっています。音楽の世界もそうです。色々なものの境界がなくなっています。

20世紀までは、「分けること」によって効率良く管理できるようにして

来ました。子どもと大人とか、学校の違い、国の違いなど。時に分断は効率性だけでなく疎外感などを生むことがあります。ジェンダーも実際は、グラデーションですよね。男性、女性と、はっきりと分けられるわけではない。性別も科目も職業も本当はもっと揺らいでいますし時に面白い掛け算こそがイノベーションを生み出す。でもまだ現実の社会構造はそうした共創の可能性に追いつけていない。

その中でSTEAM教育が出てきました。忙しいから誰か雇いたいという時に、必ずコンピューター技術が必要になっていて、例えば移民の方とか家にパソコンやWi-Fiがなかったり、「コンピューターなんて使ったことない」という失業者はいるけれども、ジョブマッチングできないという課題が21世紀初頭から少しずつ指摘されていました。STEAMの一番の目的は格差解消だと私は思っています。ジェンダーもそうですし、地方にいて情報がなかなか届かない方や、日本ではあまり話題にならないかもしれないけれど、人種のこととか、そういうことによって情報が届かないのはもったいないので、みんなの創造性を開いて未来のかけらを共創していくということを目的としています。

あらゆる事象に関わる数学

おそらくどのような道に進んでも、数学は関わってきます。アートの世界もそうですし、生物学的な世界もそうです。エンジニアリングの世界も化学の世界も、政治の世界もそうです。国際交流していても絶対に関わってくると思います。よって、数学という文字に囚われ過ぎずに、自分の好きなものを突き詰めていった時に、実は色々なものが関わってくるのだなと思うようにしていただけたらと思います。

例えば暗号とか、httpsのsがついているものはセキュリティ証明書というものが付いているのですが、この背後には巨大な素数2つが隠れていて、それは世界中のほとんどの人が知りません。それを掛け算したものが表示されるようになっています。大きい素数と大きい素数をかけてできた数字の素因数分解はスーパーコンピューターでも100年くらいかかります。掛け算は簡単にできますが、素因数分解は順番に素数で割っていく以外の方法があまり知られていないからです。「素数×素数でできた値の素因数分解がし難いというのが暗号に利用されている」という事実は、とても面白いことだと思いませんか。

政治の投票なども、「今後はオンラインで行おう」という話も出始めています。オンライン投票の何が難しいかというと、「他人が自分の名前で投票してしまうかもしれない」「誰に投票したということが漏れるかもしれない」「同じ人が2回投票してしまうかもしれない」などの問題があることです。今はこれらの問題も数学で解決されつつあります。不正をゼロにすることはできないかもしれませんが、0.0000001%くらいに誤りの確率が低い状態を作ることができれば、人間がわざわざ投票所に行って投票して、人間が集計するよりもよほど正確なのではないかと言われ始めています。

今ではエンゼルフィッシュの体の模様が、生物学的かつ化学的に、こういうものが作用して模様ができているのではないかと、色々なものが組み合わさった数式で予測できるようにまでなりました。少し前までは不可能だったことが、コンピューターでは莫大な情報量を扱うことができるので、無限に近い情報の足したり引いたりを繰り返していくことで、微分方程式のシミュレーションができます。生物の不思議も数学とか化学とか生物の掛け合わせによって、ある程度わかってきています。

理系を志す女性たちへ

日本では「迷ったら文系を選ぶ」という意思決定をする人が多いように感じます。特に女性は。男性の多い環境や、研究を重ねていくような学習スタイルに違和感を感じる人も多いようです。一方、海外でよく言われるのは、「迷ったら理系を選んだほうが良い」ということ。ラボ（研究室）や特別な知識など、自分一人では難しいもの、環境が必要なものが多いからです。

海外では専攻を複数選ぶ（大学における専攻にて、メジャーとマイナーなどを選択できる仕組み）ことができたりするので、宇宙と音楽、コンピューターと政治、というような選択をしている人がたくさんいます。日本では、1つを選んだらそれに集中する形になりがちですが、もし理系を選んだとしても、コミュニティに属するとか、何かを企画をするとか、自分がやりたいと思っていることを自由にやればいいと思います。理系を選んだほうが将来的に選択肢が増えやすいです。

「女性は理系を選ぶと就職できない、結婚できない」などと言う人もいますが、そんなことはないです（笑）。まず就職に関しては、私は逆に有利だと思っています。今まで日本の経営者に理系の人が少ないということも影響している気がしますが、これから変わってくると思います。世界的には理系の方がはるかに有利ですし、理系文系という分け方そのものが不合理になりつつあります。STEAMの力はキャリアにも繋がるはずです。

特に日本では理系分野の女性は少ないです。数学分野や工学分野が特に少なく、そもそも近年もほぼ増えていないという傾向があります。だから、思い切ったアクションを起こさないと変わらない。まずは女性の割合の目標、3割。3割いると発言がしやすく、それより少ないときはマイノリティになるため少し気をつける必要があります。しかしいずれにしても、自分の意見を持つことは大事ですし、どのような環境に身を置いたとしても、自分の声を大事にしてほしいです。一人ひとり全員が素晴らしい人ですので、自分なりの多様な考え方や方法で創造性を発揮してほしいと思います。

Program2

グループワーク（ワールドカフェ）

Group Work

"World Cafe"

理工系分野で活躍中の大学生・社会人が登場！
和やかなリラックスした空間で、実体験のお話も交えながら、
意見交換をしていただきました。

参加者がグループごとに分かれ、それぞれに1～2人、STEAM分野に進んだ大学生または社会人（登壇者）が着席。身近な距離間で実体験を聞いたり、質問したり、意見交換を行いました。登壇者が15分ごとに担当するグループを変わっていくことで、参加者たちが様々な先輩方とコミュニケーションを取れる空間となりました。

第1クール The First Session

基調講演を受けての感想

中島さち子さんの基調講演の内容を受けて、「世の中のあらゆることに数学が関係しているのだとわかって驚いた」「自分にとっての掛け算って何だろう？と考えさせられた」「苦手意識のあった英語もプログラミングも逃げてる場合じゃないなと思った」など、活発な意見交換が行われました。

第2クール The Second Session

理工系進路を選択した理由、大学での研究や、企業での仕事内容

文理の選択がこれからという参加者にとっては、理工系分野への興味関心を膨らませる時間に。すでに選択済の参加者にとっては、専攻や就職先の選び方の参考になる時間に。大学生、大学院生、技術者、研究者など、バラエティ豊かな先輩方のお話を聞くことで、それぞれの参加者が、自身に必要な学びを得ました。

第3クール The Third Session

今後の目標 女性のSTEAM分野進出についての考え

「何のためにこの学習・探究・仕事を行っているのか」「世の中にどのような価値を生み出していきたいのか」「世界にどのような影響を与えたいのか」など、先輩方の熱い想いに触れたことで、参加者たちからは、「自分も仕事を通して夢を語れるような大人になりたいと思った」「文系を選びましたが、理系に変更しようと思った」「自分が好きだと思ったことをとことん突き詰めていくことの重要性を感じた」というような意見が挙がりました。

岸上　千華さん

きしうえ　ちか

株式会社片岡製作所
技術本部 第一技術部 電池課

Q どんな仕事をしていますか？

現在は携帯電話などに使われる二次電池の充放電の検査装置を設計しています。将来的には大規模な装置の設計に携わりたいと思っています。

Q 理系を選択した理由は？

理系と文系どちらに進むかというのはすごく悩んだ時期がありますが、やはり理系分野のほうが楽しそうとか得意というのがあったので、理系分野を選んで進みました。

Q 理系の進路選択をして良かったことはありますか？

大学では理系と文系では学ぶ講義がぜんぜん異なっていて、理系の方が忙しいこともあるのですが、やはり実験や研究が長く続くので、それが楽しいなと感じていました。

Q どんな時にやりがいを感じますか？

私はまだ大きなものは担当していないですが、自分が作成した小さな部品でもそれが使われているのを実感できた瞬間は、とても嬉しく感じます。

髙野　瑠衣さん

たかの　るい

日新電機株式会社
電力・環境システム事業本部
ソリューションシステム事業部
画像応用装置部

Q どんな仕事をしていますか？

私は下水処理場等の大きなポンプ施設につけるカメラから雨水の貯留の流水量を計るような機械の開発から設置、調整を行っています。

Q 理系を選択した理由は？

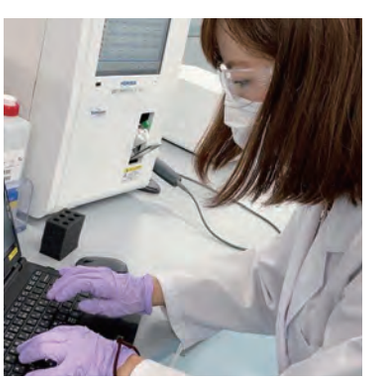
特に高校のときにしたいこととかやりたいことが決まっていたわけではなくて、ただカメラに興味があって、カメラを使うようなことをしたいとなると、理系かなということで理系を選びました。

Q どんな時にやりがいを感じますか？

日新電機が作っている製品は一般の方々の目には触れにくいものですが、私が作っているものは雨水を貯留するシステムなので、川の氾濫などを抑えることができます。人と直接の関わりはありませんが、人の暮らしに役立っていて、人々を災害から守ることにやりがいを感じます。

Q 進路に悩んでいる人たちにアドバイスはありますか？

好きなことがあれば、それを頑張るのが一番いいと思います。自分の好きなことは長く続けられますし、深いところまで知っていけると思うので、自分の好きなことを突き詰めてほしいです。



大橋　彰華さん

おおはし　あきか

株式会社堀場製作所
医用事業本部　開発・設計部
Design Engineeringチーム

Q どんな仕事をしていますか？

健康診断などで用いられる血球計数装置のソフトウェアの研究開発をしています。今後は血液診断で疾患の早期発見に繋がるような機能を開発したいです。

Q 理系を選択した理由は？

中学の理科で食物の消化の仕組みを学んだ時に、唾液や胃液にはそれぞれ役割があって、糖やタンパク質などを無駄なく分解と吸収がされてるという仕組みの綺麗さに感動したのがきっかけでした。

Q 大学院に進んだ理由は？

研究室に配属されてからの研究がとても楽しかったというのが一番の理由です。長い人生を考えたら2年間好きなことをやるというのはありかなと思ったのも理由です。

Q 今後の目標はありますか？

世の中のQOL(生活の質)を向上させたいです。学部の授業で、疾患で苦しんでいる人の話を聞くことがよくあり、人々が幸せに過ごせる時間を伸ばしたいと思いました。

冬木　愛子さん

ふゆき　あいこ

株式会社ワコール
人間科学研究所　企画課

Q どんな仕事をしていますか？

女性の体型を詳しく把握するための研究をしていて、今は主に体型データベースをつくる仕事をしています。変化していく女性の生活に合わせた商品の研究開発をしていきたいです。

Q 理系を選択した理由は？

文系クラスを選択していましたが、大学進学にあたって小さい頃から好きだった衣類について科学的に学ぶ学部があることを知り、自分で化学の勉強をして受験をしました。

Q 大学院に進むか就職するかはどのように決めた？

私は比較的早く社会に出ていくことに憧れがあり、自分の力を社会で発揮したいという気持ちがあったので大学院に進まずに就職をしました。

Q どんな時にやりがいを感じますか？

自分が携わった商品やサービスが世に出たときも嬉しいですし、さらにそれを使用された方のお声が聞けた時には、女性の生活に役に立てたなって実感が持てます。

村田　ゆとりさん

むらた　ゆとり

京都工芸繊維大学
工芸科学部
応用生物学課程
3回生

Q どんな研究をしていますか？

植物の研究室に配属されることになりました。具体的な研究内容はまだ決めていませんが、食品や農作物など人の生活に関わるものの研究開発に興味があります。

Q 理系を選択した理由は？

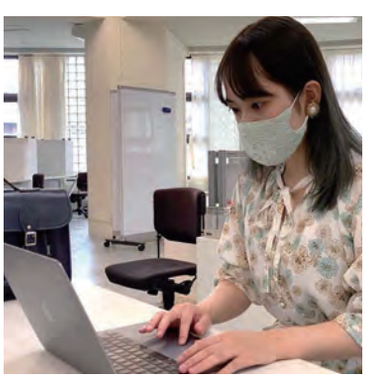
私は数学が苦手だったので理系に進むことをためらいましたが、理科が好きで理科の勉強を続けたいという思いから、苦手なものがあっても理系を選択しました。

Q 大学院に進学の予定はありますか？

現時点では大学院に進学を考えています。理系の研究というのは大学院に進み、より専門的に深めていくのが面白いところだと思っているので、大学院での研究を経て就職したいと思っています。

Q 進路を悩んでいる人たちにアドバイスはありますか？

世の中にあるもので好きなもの、興味があるもの、面白いと思えるものが何なのか、そういうところから考えを広げていったらいいのではないかと思います。



吉成　愛美理さん

よしなり　えみり

京都工芸繊維大学
工芸科学部
デザイン・建築学課程
3回生

Q どんな研究をしていますか？

現在は平面的なデザインの研究をするビジュアルデザインを専攻しています。卒業後は、デザインによる企業ブランディングで世の中に貢献したいと思ってます。

Q 理系を選択した理由は？

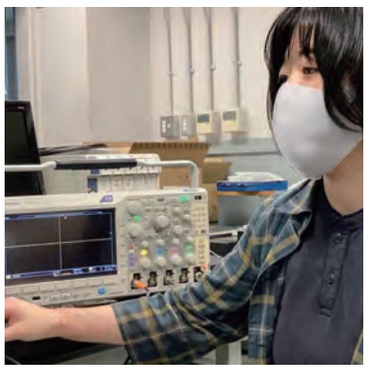
父親が理系の面白さを小さい頃から教えてくれていました。解明して新しい物事を発見する、発明するということに強く魅力を感じて、それで理系が好きだなという気持ちから選びました。

Q 入学してよかったことは？

とても実践的な授業が多いということにびっくりしました。理系って本を持って座って聞いてるだけみたいなイメージがあったのですが、実習が充実しているので、楽しいです。

Q 進路に悩んでいる人たちにアドバイスはありますか？

苦手というだけで可能性を潰してほしくないです。学問を学んでいる自分、職業についている自分を想像して、少しでも楽しそうって思ったら、その道もあるってことを視野に入れておいてほしいです。



操谷　佳奈さん

くりたに　かな

京都府立大学　大学院
生命環境科学研究科
環境科学専攻
修士　2回生

Q どんな研究をしていますか？

物質の性質を調べるための分析装置を使う研究をしています。将来的には大気汚染や水質汚染の原因を取り除けるような装置の開発をしたいです。

Q 理系を選択した理由は？

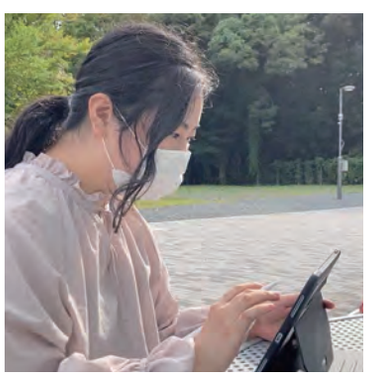
小さいときからものづくりが好きで、将来ものづくりに携わりたいと思ったのがきっかけでした。環境・情報科学科は1つの分野に絞るのではなく数学、理科、情報と幅広く学べるということで志望しました。

Q 大学院に進んだ理由は？

研究を長くやりたいという思いがあって、大学4年で卒業の場合だと、就職活動のことも考えると半年ほどで研究が終わってしまうので、大学院に進んで、深く研究することに決めました。

Q 進路に悩んでいる人たちにアドバイスはありますか？

科目の得意不得意や点数で決めずに、自分が好きなことだったり、時間を忘れてやってしまうことだったり、それが何かというところから将来何がしたいのかを考えると良いと思います。



清水　歩美さん

しみず　あゆみ

京都府立大学
生命環境学部
農学生命科学科
1回生

Q どんな研究をしていますか？

植物や動物の特性を応用して人間に役立てるものを生み出す研究を行っています。卒業後は研究職に就き、貧困や健康の問題を解決したいと思っています。

Q 理系を選択した理由は？

幼少期の頃、体が弱くて毎年インフルエンザにかかるような病弱体質だったのですが、予防接種を毎年打っていると、インフルエンザにかからなくなり、免疫システムに興味を持ったのがきっかけです。

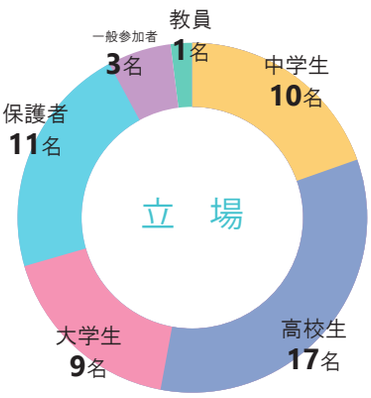
Q 入学してよかったことは？

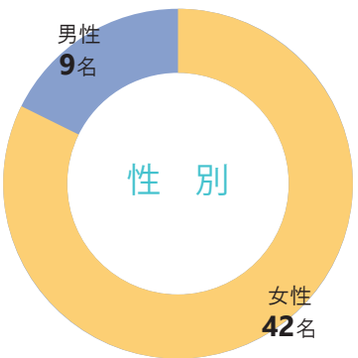
コロナ禍ということもあって授業形態が非常に難しくなっていますが、その中でも、教員の方々が親しく接してくださって質問などがしやすかったです。勉学に励む環境づくりがされているなと感じています。

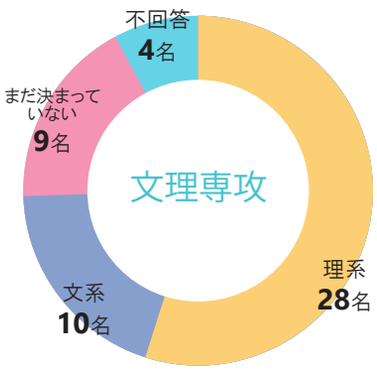
Q 進路に悩んでいる人たちにアドバイスはありますか？

私は、自分の楽しいことを追求していきたいと思っているので、まずは楽しいことを紙に書いたりして、自分でそれがわかるような状況にするといいと思います。

参加者属性　参加者51名

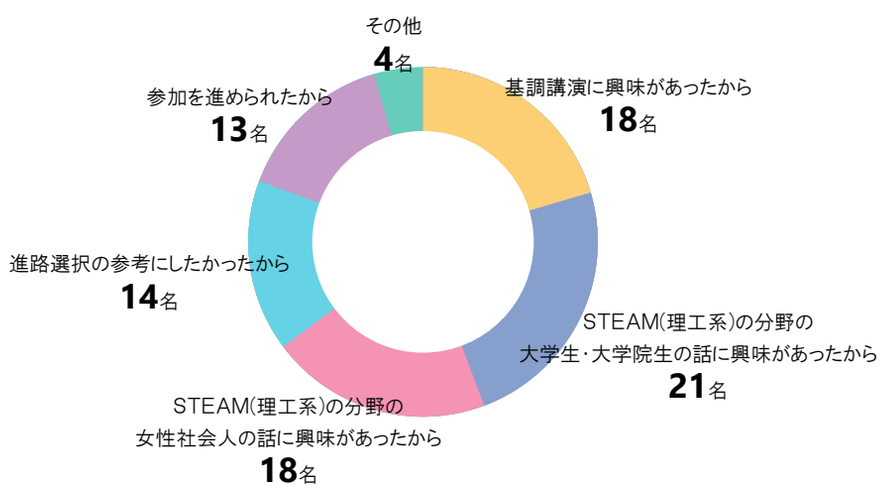




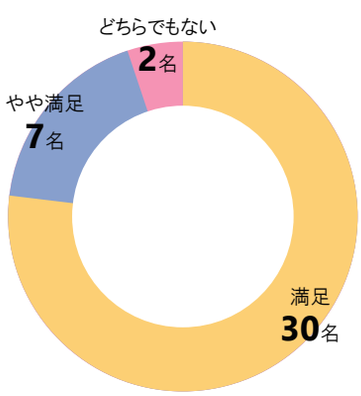


参加者アンケート　参加者中39名が回答

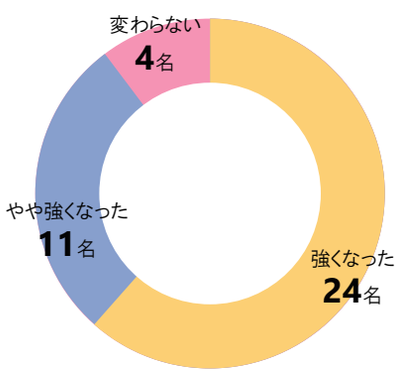
Q.1　セミナーに参加した理由をお聞かせください。（複数回答可）



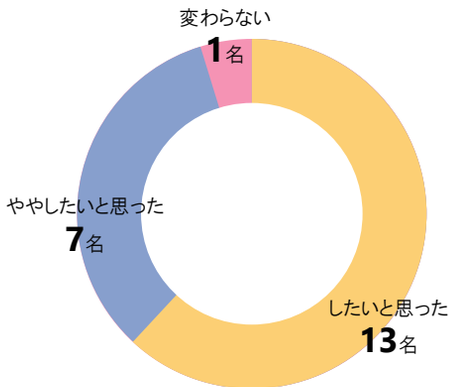
Q.2　セミナー全体に対する満足度をお聞かせください。



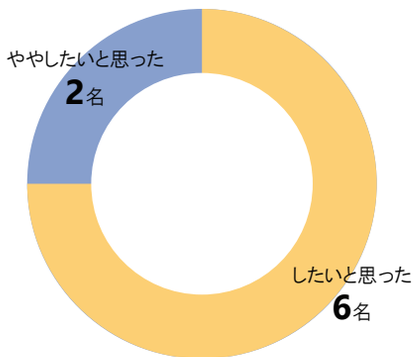
Q.3　基調講演を聞いて、STAEM(理工系)分野への興味・関心は強くなりましたか？



Q.4 今回のセミナーに参加して、理工系分野への進学や就職を進路選択したくなりましたか？（21名が回答）



Q.5 今回のセミナーに参加して、お子様に対して理系進路選択を薦めたいと思いましたか？（8名が回答）



Q.6 今回のセミナーで最も印象に残ったことはなんですか？

中島さんのお話を聞いて、最初理系は数学や理科といったイメージが強くあったけれど数学と音楽や、数学と芸術などいろいろな分野と結びつけて話しておられて、理系でもたくさんのことができると知りました！
（高2 女性 理系進路希望）

芸術も理系と繋がっていると知って、びっくりしました。（中1 女性 進路未定）

やりたいこと、興味を持ったことに全力で進んでいくことの大切さを感じました。周りではなく、自分の意見を突き通すことの必要性を感じました。
（高2 女性 理系進路希望）

美術にも理工系の技術が使われていたり、物理学者が数学の問題を解いたりと、自分が専攻した分野と違うことにも関わっていけるということが印象に残りました。（高1 女性 進路未定）

先輩方の話をきいて、理系っていいなって思えたし、先輩方のようになりたいと思いました。（高1 女性 進路未定）

迷ったら、理系に行ったほうが進路の幅が広くなること。
（中2 女性 進路未定）

みなさん自分の好きなことで大学先や就職先を決められていて、自分が得意不得意よりも興味のある分野に行くことが大切だなと感じました。
（高2 女性 進路未定）

基調講演の中島さち子さんの在り方。こんなに活き活きとしている大人みたことないくらい、目の輝きと、自身がやっていることと創り出したい未来へのワクワク感のほとばしりっぷりがハンパじゃない。なんとなく日本の行く末は暗いみたいなことを言われているのに、この人は未来への希望しかないなと。自分もこんな風に人に希望やワクワクを伝えられるような社会人になりたいなと、そう感じました。（大学生 男性）

Q.7 今回のセミナーについて感想はありますか？

私は将来の展望というものが持てていなかったのですが、今回話を聞いて世の中には本当に色々な学べる分野というものがあると知って、その中に自分が興味を持つようなものもあると思うので楽しみです。貴重なお話をありがとうございました。（高1 女性 進路未定）

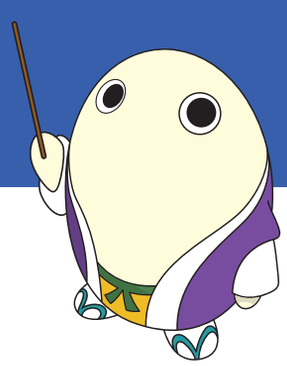
明確なことがはっきりしていない自分にとって、とても興味のあるものになりました。ありがとうございました！（中2 女性 進路未定）

情報を手に入れる機会があまりなかったので、今回本当に多くのことを知ることができ、将来や自分の選択に現実味を持つことができました。貴重な話も多く聞くことができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。
（高2 女性 理系進路希望 ）

何かと何かを”掛ける”ことで自分の将来がとても広がることがわかりました。進路は決めてしまいましたが、まだまだ可能性があると分かりうれしくなりました。参加してよかったです。ありがとうございました。
（高3 女性 理系進路希望）

色々な分野の先輩方の体験談や考えを聞け、自分の進路を考えることが出来ました。ありがとうございました。（高1 女性 理系進路希望）

女子大の工学部創設やデータサイエンス学部の創設などが相次ぎ、進路選択について非常に興味があります。寿命が延びたことにより職業人としても長く活躍することが予想され、さらに性別に関係なく働く時代が到来していると感じますので、できるだけ自分の職業やキャリアについて自分が希望するイメージに近い形で進路選択して欲しいと思います。（保護者 女性）



発行元：京都府府民環境部男女共同参画課

☎ 075-414-4291　✉ danjokyodo@pref.kyoto.lg.jp

発行：2022年2月

制作：株式会社 成基総研